

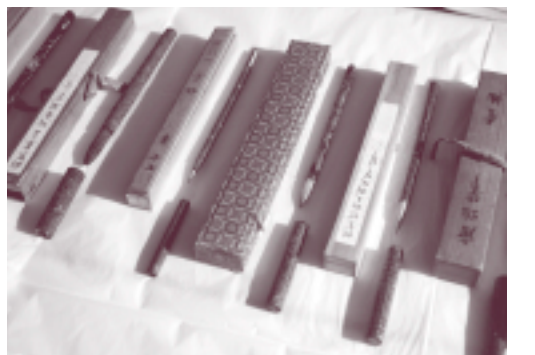


▲木村陽山コレクションは今後の筆づくり調査研究の大変貴重な学術的資料です

筆の里工房では、平成6年の開館以来、筆づくりの調査並びに関連資料収集に取り組んでおり、常設展示でも紹介しています。このたび新たに「日本で古今無双と言われる毛筆コレクション資料1127点（筆953本、資料174点。呼称：木村陽山コレクション）」を収蔵することができました。かねてから所在が不明であったこの毛筆コレクション資料には、明治初期に復刻された正倉院御物の天平筆、文人画家 富岡鉄斎などが書画制作に使用した筆、江戸末期創業筆店の覚書なども含まれており、ここまでまとまった毛筆コレクションとしては、わが国の唯一のものであり、学術的にも大変貴重な資料と言えます。

### 木村陽山コレクション

木村陽山は、明治32年（1899年）に京都に生まれた書家です。江戸時代に活躍した書家、山本竟山に師事してその書を学びます。竟山は中国に渡っては、その都度多数の書道関係資料を収集しており、没後に弟子たちがそれぞれにこれらの資料を譲り受けました。その際、陽山はもともと興味を持っていた毛筆資料のほとんどを入手したといいます。この、竟山旧蔵コレクションが陽山コレクションの基礎となり、その後も陽山は熱心に筆を収集し続



けました。

昭和24年（1949年）に自宅が火災に遭った際には、他の資料とは別にこのコレクションを一括しておいたために真つ先に持ち出すことができ、危うく難を逃れたといえます。このことから、毛筆をいかに大切にしていたかが分かります。

このコレクションの主な筆として、軸裝飾が施されているもの、様々な動物の毛や植物の繊維で作られたもの、古文書をもとにつくられたもの、日本最古の筆

# 木村陽山コレクション

## 古今無双の毛筆コレクション資料を収蔵

を復刻したもの、著名な書画家が実際に使用したものの、などが挙げられます。

### 知識人との交流

陽山の名を不朽のものとしていた名著『筆』（大学堂書店、1975年）の執筆の背景には、『広辞苑』を編纂した新村出のアドバースがりました。両者の交流はとりわけ深く、当時

の日本を代表する言語学者も、陽山の毛筆に関する学識に一目おいていたことがうかがい知れます。

このような知識人同士の交流の結果、陽山コレクションに入った毛筆も多く、最後の文人画家といわれる富岡鉄斎の孫、富岡益太郎や、日本画壇の重鎮、竹内栖鳳などの著名な画家の子孫からも彼らの用筆を寄贈されています。明治時代の内閣総理大臣、西園寺公望

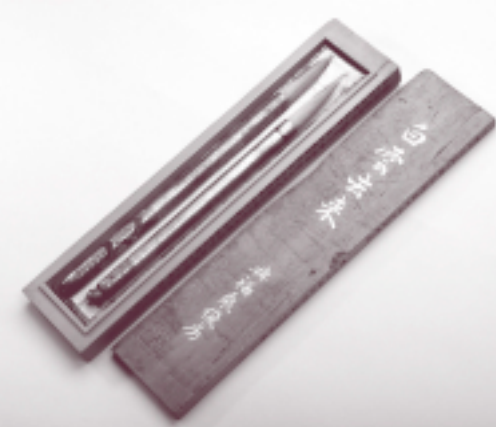
### 熊野筆との関わり

や、臨済宗の僧、橋本独山などの用筆も交流によってもたらされたものです。

有馬（現在の兵庫県神戸市）は、熊野で筆づくりが始まった江戸時代末期には、日本最大規模の産地であったため、熊野の人々は有馬でも筆づくりを学んでいます。陽山コレクション

には、熊野筆の源流ともいえる有馬筆が含まれていますが、このような裝飾筆ではない一般に使用された毛筆は、実用品ゆえに伝来することが極めて少ないのです。このことは、戦前から収集が始まったこのコレクションの一つの特長であり、熊野にとってはもちろんのこと、わが国にとって日本文化を陰で支えた筆の歴史をひも解くに大変価値のあるコレクションと言えます。

## 古今無双の毛筆コレクション資料を収蔵！



▲厨子の柱を軸にして作った筆。箱は唐招提寺の遺材を利用、「白雲去来」の文字は興福寺管長の書。



▲江戸末期創業の筆店、高木寿頼店の覚書。販売していた筆のラベルが貼り付けてあるのが見える。



▲明治期の筆職人、勝木平造が復刻した天平筆。天平筆は日本現存最古の筆で、正倉院の御物。

3月17日（土）～4月22日（日）には、このコレクションの展覧会「The筆」を、また3月21日（祝・水）には、「筆づくりフォーラムI」を開催します。熊野の新しいお宝をぜひご覧ください。

問合せ先 筆の里工房

TEL 855-3010

（企画課）